

平成17年(2005年)3月20日発行



学位記取得おめでとう 卒業生へ贈ることば

日本工業大学の学位を授与され、卒業される諸君。おめでとう。社会に飛び立ちようとする諸君の前には、二つの世界が広がっているといえるのではないだろうか。一つは「昨日までの設計図に従って明日を組み立てる人たちの世界」、もう一つは「創りたい明日を描き、今日の問題を解決しようとする人たちの世界」だ。

本日晴れて学位を取得された学部並びに大学院の学生諸君、おめでとうとございます。明日から諸君は、実社会へと第一歩を踏み出します。その実社会における景気の見通しは、報道によれば、現在のところ「踊り場」状態であると言います。「踊り場」という言葉が経済分野で何時頃から使われ始めたかは詳らかにしませんが、「踊り場」そのものが階段の中間にあること



理事長 大川 陽康

みますと、様々なことがあった年でした。なかでも、自然災害が強く印象に残ります。10月20日に日本列島を縦断した台風23号は、全国各地に高波や土砂崩れなどの被害をもたらし、取り分け長岡市や小千谷市を中心とした新潟県は、引き続き23日に発生した新潟中越地震によって



学長 柳澤 章

に從わぬ者への恐れをあらわにし、見守る庶民には、どこか若手経営者に新しい時代の到来を感じ、とまどいを感じながらも、密かに応援する空気がある。諸君の多くは卒業後、企業、あるいは行政機関、教育機関などに所属するだろう。最近の企業はどんな「設計図」に従って

そんな二つの世界が、昨年から今年にかけて象徴的に浮かび上がった。ネット社会の若手経営者の行動に、旧社会の長老たちが振り回され、何とか旧来の仕組みを守ろうとしている光景だ。どちらが「正しい」か、判断は難しいが、長老たちの言動は「昨日までの設計図」

時代は「変革の人材」 を求めている

社員を採り、社員の業績を評価しているのか。大きな流れは、採用は「知識詰め込み型」から「問題解決型」へ、評価は「成果・実力主義」へ、である。このように変化した理由は、他でもない。「知識詰め込み型」社員は再生産では、企業は、もはや立ち行かなくなってしまう

「問題解決型」の人材を採用した意味がないばかりでなく、「問題解決型」の君達の活躍する場は広くないことになる。なぜうまいかかないのか。様々な理由が挙げられているが、結局のところ、評価する人間自身が「知識詰め込み型」なので、そこから評価の基準が抜け出せないのだらう。

●「問題解決型」が変えていく。しかし、諸君がこれから参加しようとしている企業社会は、新時代に向けて自らを改造しようとしたにもかかわらず、評価システムは、いまだに「知識詰め込み型」社員に高い点がつけられるという結果に落ち着いているかもしれない。これでは

「問題解決型」の人材を採用した意味がないばかりでなく、「問題解決型」の君達の活躍する場は広くないことになる。なぜうまいかかないのか。様々な理由が挙げられているが、結局のところ、評価する人間自身が「知識詰め込み型」なので、そこから評価の基準が抜け出せないのだらう。

暗黙知の 可視化に向けて

壊滅的な被害を被りました。更に、暮れも押し迫った12月26日には、百年に一度と言われる規模のスマトラ沖地震が発生し、地震から一ヶ月を経過した段階での、死者・行方不明者は30万人を超える報道されました。地震や台風の予知、また、その被害状況の予測に関しては、

今、述べたように、自然災害については、世界中で最新の科学技術を駆使して説明しようとしています。今回の災害の最も大きな原因であった「ツナミ」の研究については、我が国が最も進んでいると言われている。しかし、結論的に言えば、分らないところはまだまだ在ったことになり

長い歴史に育まれた伝統的な「ものづくり」の世界では、これまで「匠(たみ)」と呼ばれる職人さん達が、経験的に体得してきた技術を「技(わざ)」として伝承してきました。現在、生産現場では、「匠の技」を科学技術により数値化し、ロボットや工作機械に数値制御として

世界中で最新の科学技術を駆使して説明しようとしています。今回の災害の最も大きな原因であった「ツナミ」の研究については、我が国が最も進んでいると言われている。しかし、結論的に言えば、分らないところはまだまだ在ったことになり

長い歴史に育まれた伝統的な「ものづくり」の世界では、これまで「匠(たみ)」と呼ばれる職人さん達が、経験的に体得してきた技術を「技(わざ)」として伝承してきました。現在、生産現場では、「匠の技」を科学技術により数値化し、ロボットや工作機械に数値制御として

長い歴史に育まれた伝統的な「ものづくり」の世界では、これまで「匠(たみ)」と呼ばれる職人さん達が、経験的に体得してきた技術を「技(わざ)」として伝承してきました。現在、生産現場では、「匠の技」を科学技術により数値化し、ロボットや工作機械に数値制御として

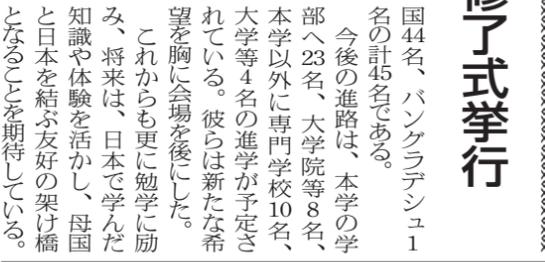
過去最多の3人が カレッジマイスターに —ものづくりの実力を実社会で生かす—



完成させたミニ旋盤をチェックする。左から松尾君、阿久津君、鈴木君

機械工学科では、学生の創造力を育むことをカレッジマイスター制度開設以来最も多くの3人にカレッジマイスター認定証を授与する。3人は、今春同学科を卒業する阿久津宜久君(兼子研究室所属、栃木県立栃木工業高校出身)、鈴木孝司君(有賀研究室所属、埼玉県立川口工業高校出身)と松尾君(兼子研究室所属、埼玉県立朝霞高校出身)。

留学生別科修了式挙行政



3月1日、平成16年度春の修了式が学生会館ホールで行われた。修了者は、中

国44名、バンクラフェシユ1名の計45名である。今後の進路は、本学の学部へ23名、大学院等8名、本学以外に専門学校10名、大学等4名の進学が予定されている。彼らは新たな希望を胸に会場を後にした。これからも更に勉学に励み、将来は、日本で学んだ知識や体験を活かし、母国と日本を結ぶ友好の架け橋となることを期待している。

日本工業大学院 技術経営研究科
専門職大学院開講へ

8階エレベーターホールの談話スペース

8階の教室

本学専門職大学院は、昨年11月30日に文部科学省の正式認可を受け、第1期生の募集活動を開始。第1回入試を1月23日(日)に、第2回入試を3月13日(日)に行った。また、入学式は、4月3日(日)に予定されている。

社会人を対象とした専門職大学院では、毎週土曜日に加えて平日夜間に週2日程度受講すれば、一年間で技術経営修士(専門職)の学位を取得できる。仕事をしながら学ぶ院生にとって、利用し易くなっている。

東京神田神保町駅前に建設中であった「神田キャンパス」の建物も完成。同建物内には、専門職大学院と専門学校が設置される。

建物は、鉄筋コンクリート造り地上8階、地下1階で延べ床面積は約3563㎡。8階から6階までが専門職大学院の専用スペースで、1階から直通エレベーターを利用する。各階のエレベーターホールは、ゆったりとした談話スペースとなっており、壁の大きなモニターには、開講状況が表示される。各教室の備品・機器類の搬入も完了し、神田キャンパスは4月開講を待つばかりである。

感性と
教養

ノーベル化学賞授賞者野依良治先生が語る

技術教育国際フォーラム協議会
学校法人 日本工業大学 編

3月下旬発行予定

本体価格1000円
発行丸善株式会社

機械工学科

平成
十六年度

卒業生一覽

3月20日付
確定者

電気電子工学科

建築学科

竹内淳彦教授 最終講義

夢をもち前向きに生きることを強調



・最終講義後、学生や職員から花束を受ける竹内教授

共通系・竹内淳彦教授が3月に定年退職を迎えるにあたり、1月25日に学友会館ホールにて最終講義「日本産業の行方と若者たちの明日」が行

われ、多数の学生と教職員が参加した。竹内教授の専門は工業地理学で、現場調査から理論体系を構築し、産業地域社会論や機械工業の地域的体系論を打ち立てた。これらの成果は国や多くの自治体の政策に影響を与え、国際学会の主催をはじめ学会でもリーダーシップを発揮してきた。

最終講義は、戦後から今日に至る産業発展と日本社会を振り返り、21世紀を支える人々へ日本のあるべき姿を伝えた。話の内容は、日本の産業発展は欧米の移入だけで成り立ったものではなく、歴史

箕輪工業高校との高大連携／関係者23名が視察に



・学内見学の前に情報工学科棟5階で学長、副学長等から説明を受ける箕輪工業高校関係者

2月16日、長野県の箕輪工業高等学校教職員および箕輪町町長、教育長等関係者23人が訪れ、本学を視察した。同校とは、昨年11月に高大連携の調印を結んだが、今回は、同校在校生が2泊3日の体験授業を受ける等、より深い交流がはかられた。今後、さらなる発展が望まれている。

大学院工学研究科修了生

●博士前期課程

〔機械工学専攻〕

〔システム工学専攻〕

〔情報工学専攻〕

〔電気工学専攻〕

●博士後期課程

〔機械工学専攻〕

〔電気工学専攻〕

〔システム工学専攻〕

〔建築学専攻〕

◎学位記授与式

3月20日(日)

